

ポスター | 1-09 集中治療・周術期管理

ポスター

周術期：麻酔管理

座長:大崎 真樹 (静岡県立こども病院)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:14 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-140~III-P-143

所属正式名称: 大崎真樹(静岡県立こども病院 循環器集中治療科)

[III-P-142]新生児および乳児に対する PAB直後の鎮静の重要性

○小西 章敦, 佐藤 充, 崔 禎浩 (宮城県立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:PAB, 周術期管理, 鎮静

【目的】新生児および乳児に対する PAB直後の鎮静の重要性について検討する。【対象と方法】2008年7月~2014年12月に、補助循環非使用下に PAB(+CoA repair)を施行した新生児・乳児18例を対象とし、周術期に徐脈・血圧低下により、ECMO, CPRまたは Epiの緊急投与を必要としたイベント群 (E群)と、非イベント群 (N群)に分け、周術期因子について検討した。【結果】18例中 E群は5例 (ECMO 1, CPR 3, Epi 1)。手術時平均日齢:E群 66.8 ± 87.1 , N群 44.0 ± 42.7 , 平均体重(kg)E群 3.7 ± 1.8 , N群 3.1 ± 0.8 で共に有意差なし。疾患内訳は E群 VSD 2, AVSD 2, TGA/VSD 1。N群 CoA complex 5, TGA/VSD/PS 2, AVSD 2, その他4。21 trisomy は E群に2例。両群とも死亡例なし。手術時間(分) E群 164 ± 59 , N群 170 ± 76 で有意差なし。PAB周径 (mm)は E群 BW+ (19.8 ± 2.7), N群 BW+ (19.6 ± 2.3), PAB流速(m/s)は E群 3.0 ± 0.7 , N群 3.3 ± 0.4 で共に有意差はなかった。術中フェンタニル使用量, 術中ミダゾラム使用量も両群間で有意差なし。PABからイベント発生時までのミダゾラム使用量($\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$)は E群 1.1 ± 1.5 , N群 2.2 ± 1.4 と有意差はないものの E群の方が少なかった。イベント発生は PABから2時間以内が2例, 2-5時間が1例, 5-8時間が2例。その契機となったものは, 自然覚醒が3例, 気管内吸引が2例であった。術後 SpO₂(%)は E群 87.6 ± 10.9 , N群 89.0 ± 5.6 と有意差を認めなかった。【結論】PABの程度, 及び術後の SpO₂ より両群とも適切な PABが施行されていたと考えられる。しかし, E群において, PAB後のミダゾラムの投与量が N群よりも少なく, 全てのイベントが術中から術後8時間までに, 自然覚醒もしくは気管内吸引を契機として起こっていることから, 少なくとも術後8時間は, 人工呼吸管理下での十分な鎮静が必須であると考えられた。